

21世紀のコンパクトカーのスタンダード

日刊自動車新聞

カラフルアクア全14色

# よりスタイリッシュにアクティブに 新アクア誕生

最近トヨタを中心にハイブリッド車の販売が好調だが、中でも絶大な人気を誇るのがアクアだ。月別に集計される販売統計を見ると、国内販売のナンバーワンになる月も多い。アクアはコンパクトなボディで運転がしやすく、走行性能も優れ、燃費性能は世界でトップクラスだ。価格は170万～200万円前後で求めやすい。売れる要素を詰め込んで、数多くのユーザーから支持された。そして今回、マイナーチェンジを実施。外観を洗練させ、ヘッドランプの機能も充実。ボディとサスペンションも強化され、従来の優れた燃費を損なわずに乗り心地と走行安定性をさらに高めた。新グレードの「X-URBAN/エクス・アーバン」も見逃せない。SUVの要素を備えたクロスオーバーモデルで、外観を大幅に刷新。都会的でアクティブな雰囲気を感じさせる。外装色も14色と豊富にそろえた。新アクアは従来以上にエコと楽しさを両立させ、「21世紀に相応しいコンパクトカーのスタンダード」として熟成されている。

発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
芝大門センタービル3階  
電話 東京 (03) 5777-2351代表

トヨタ  
アクア  
特集号

# AQUA



燃費37.0km/l

都会センスのクロスオーバー  
「エクス・アーバン」を新設定  
X-URBAN



文/渡辺陽一郎(カーライフジャーナリスト) 写真/TOYOTA

## アクアはベーシックなL、売れ筋のS、上級のG、質感を高めたGブラックソフトレザーセレクション、そして新しいX-URBANという5種類の選択肢を用意する



オプション装着車

パッケージオプション

5つの選択肢に加え、さらに装備を充実できるように6種類のパッケージオプションを設定した。ハイブリッドシステムの始動や停止がスイッチ操作で行えるスマートエントリーパッケージ、新しいパイビームLEDヘッドランプとLEDフロントフォグランプを装着できるLEDヘッドランプパッケージ、オートエアコンのナノイー機能やシートヒーターを組み合わせたビューティーパッケージ、バックカメラなどを備えてディーラーオプションのカーナビを装着できるナビレディパッケージ、16インチアルミホイールなどをセットにしたツーリングパッケージ、TFTマルチインフォメーションディスプレイなどを含んだアドバンストディスプレイパッケージがある。



従来以上にしなやかな乗り心地を追求している

G's専用ブラック

	X-URBAN	Gブラックソフトレザーセレクション	G	S	L
車両重量(kg)	1,090	1,080	1,080	1,080	1,050
最小回転半径(m)	5.4	4.8	4.8	4.8	4.8
JCO8モード燃費(km/l)	33.8	37.0	37.0	37.0	37.0
エンジン型式			1N2-FXE		
総排気量(l)			1,496		
種類			水冷直列4気筒DOHC		
使用燃料/燃料タンク容量(l)			無鉛レギュラーガソリン/36		
最高出力[ネット](kW<PS>/rpm)			54<74>/4,800		
最大トルク[ネット](N・m<kgf・m>/rpm)			111<11.3>/3,600~4,400		
モーター 型式/種類			11M/交流同期電動機(永久磁石同期型モーター)		
モーター最高出力(kW<PS>)			45<61>		
モーター最大トルク(N・m<kgf・m>)			169<17.2>		
動力用主電池 種類/個数/接続方式/容量(Ah)			ニッケル水素電池/20/直列/6.5		
全長×全幅×全高(mm)	4,030×1,695×1,490		3,995×1,695×1,455		
ホイールベース(mm)			2,550		
トレッド 前後(mm)	1,465/1,460		1,470/1,460		1,480/1,475
最低地上高(mm)	160			140	
室内長×室内幅×室内高(mm)			2,015×1,395×1,175		
乗車定員(名)			5		
駆動方式			前輪駆動方式		
トランスミッション			電気式無段変速機		
ステアリング			ラック&ピニオン		
サスペンション 前			ストラット式コイルスプリング(スタビライザー付)		
後			トーションビーム式コイルスプリング		
ブレーキ 前			ベンチレーテッドディスク		
後			リーディングトレーリング式ドラム		
タイヤサイズ	175/60R16		175/65R15		165/70R14

アクア主要諸元表



アクアG's

# G's

アクアは以前から、エアロパーツ、専用の足まわりなどを備えたG'sを設定している。今回のマイナーチェンジでは、前述のようにベース車のボディ剛性が向上したので、サスペンションに改めて専用のチューニングを実施。G's専用のヘッドランプやテールランプも採用され、外観もますますスポーティになった。

メーカーオプションを組み合わせて装着した場合、車両重量、燃料消費率は異なります。詳しくは近隣の販売会社にお問い合わせください。燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。



# AQUA





# X-URBAN

## アクアのマイナーチェンジで、最も注目されるのが新グレード「X-URBAN/エックス・アーバン」だ。

+20mmの最低地上高160mmというSUVの要素を備えたクロスオーバーモデルを新たに設定した。

### 一番の特徴は外観のデザイン。

存在感の強い専用フロントグリル、サイドマッドガード、ルーフモールといったパーツを装着して、アクティブな雰囲気演出している。X-URBAN専用の16インチアルミホイールを装着し、サスペンションも変更して、最低地上高(路面とボディの最も低い部分との間隔)は20mm拡大。悪路での走破力が高まり、駐車場に入る時の段差も乗り越えやすい。外観だけでなく実用性も向上させた。その一方で全高は1490mmに収まり、SUV感覚のクロスオーバーモデルでありながら、立体駐車場の利用性を妨げない。ちなみにSUVで立体駐車場を使えるのは数車種に限られる。運転のしやすい5ナンバー車はアクアX-URBANだけなので、日本の道路条件に合った貴重な選択肢だ。X-URBANのボディカラーは11色。専用のパーツカラーと組み合わせると33通りのバリエーションを用意した。

スタイリッシュでカッコイイ～ネ!!



「内装はブラック基調で合成皮革とラファブリックを組み合わせた専用シート表皮を設定。アクセントカラーとして、シルバーとオレンジの2色を選ぶ。」



X-URBAN

エコ運転をサポートするメーターパネル

### アクアが支持される理由

納得の人気!

アクアが高い人気を得ている理由は、優れた燃費性能、運転しやすいサイズ、気持ちの良い運転感覚、割安な価格などだろう。

これらのうち、今回のマイナーチェンジでは、運転感覚と乗り心地も向上させた。ボディのスポット溶接箇所を増やして剛性をアップ。サスペンションのチューニングも見直し、走行安定性と乗り心地のバランスを従来以上に高めた。空力特性も、フロント&リアフェンダーの後にエアアウトレットを装着して改善させている。上級のGグレードにはクルーズコントロールが標準装着され、長距離ドライブもさらに快適になった。さまざまな機能をレベルアップさせながら、JC08モード燃費は従来と同じ37.0km/ℓを維持。世界トップの低燃費車であり続けている。



14 COLOR



## HYBRID

### トヨタの環境対応の中心はハイブリッド

トヨタはハイブリッド車を豊富にそろえて、クルマの環境性能の向上に貢献している。

アクアとプリウスが柱だが、売れ筋のカローラアクシオ&フィールダー、高級セダンのクラウンシリーズ、ミニバンのヴェルファイア/アルファード、ヴォクシー/ノア/エスクァイアなど、大半のトヨタ車でハイブリッドを選べる。化石燃料の消費量、二酸化炭素の排出量を抑えるには、燃費性能の優れたクルマの比率を上げることが大切。突出して燃費の良い車種を開発しても、販売台数が少ないと、環境の改善は期待できない。その意味でトヨタの「ハイブリッドラインナップ」が果たす役割は大きい。先ごろ燃料電池車のMIRAIも登場して、新たな発展も見えてきた。

ハイブリッドカーを1人でも多くの人へ! 価格もお手軽です!!

# AQUA



頼もしい燃費37.0km/ℓ

新しいアクアはますますいいね!

ワイド感あふれる縦基調のテールランプ

精悍なイメージのフロントバンパー

### A change of the EXTERIOR

エクステリアの変更点

アクアはもともとルーフを低めに抑え、シャープなボディスタイルが特徴だった。今回のマイナーチェンジでは、この外観をさらに際立たせる変更を加えている。フロントマスクでは、1灯の光源でロー/ハイビームを切り替える「バイビーム」方式のLEDヘッドランプを採用した。これに新デザインのフロントバンパーなどを組み合わせて、従来の親しみやすさに加えて、精悍なイメージも加えた。ボディ後部も変更を受け、テールランプを縦基調にデザインすることでワイド感を強調。ターンシグナルにはメッキパーツも加えて、質感を高めている。このほか売れ筋のS、上級のGグレードには、新しいデザインの15インチホイールキャップを装着。横方向からの見栄えもカッコ良くなった。

LEDヘッドランプ

15インチホイールキャップ

ターンシグナル付ドアミラー

### A change of the INTERIOR

インテリアの変更点

### 内装では質感を向上させ、高級な雰囲気を演出している。

「インパネの中央部分やサイドには、光沢のあるピアノブラック塗装を採用。」

色彩も変更され、売れ筋になるSグレードの内装色には、先進性を表現したブルーブラック、華やかなプリリアンレッドを新設定した。上級のGグレードでは、シックで上質な雰囲気を醸し出すディープブラウンも設けている。各グレードのイメージに応じた色彩を用意した。インパネ周辺の基本レイアウトは従来型と同様で、デジタル表示のメーターが高い奥まった位置に装着されて視認性が良い。前方から視線を大きく動かさずにメーターを確認できる。エアコンのスイッチは比較的高い位置に装着され、手探りの操作もしやすい。シフトレバーはフロア式で、さまざまなユーザーにとって使いやすい。



Sブルーブラック

### AQUA HISTORY

#### アクアの歴史

2011年12月にアクアが登場した

トヨタは1997年に世界初の量産ハイブリッド車として、初代プリウスを発売。2003年に2代目、2009年には現行型の3代目に発展して売れ行きを伸ばした。そこでハイブリッド車をさらに充実させるべく、コンパクトな車種として2011年12月下旬に登場したのがアクアだ。5ナンバーサイズのボディに、1.5リッターエンジンをベースにしたハイブリッドを搭載。世界でトップの低燃費、運転のしやすさ、軽量なボディによる優れた走行性能、割安な価格によってヒット作になった。発売されてから現在まで、国内販売ランキングの上位を保ち続けている。2013年5月には一部改良を行い、装備を充実させてブラックソフトレザーセレクションを加えた。さらに同じ2013年の11月にも改良を施し、エンジンの摩擦抵抗を抑えるなどの手を加えて、JC08モード燃費を1.6km/ℓ向上。現在の37.0km/ℓに達した。サスペンションをチューニングして乗り心地もさらに快適になっている。遮音材の追加で静粛性も改善された。スポーツモデルのG'sを設けて、ユーザーの幅を広げたことも注目されるだろう。